



POINT 1

知・技

正しい言葉の使い方を身に付ける学習活動の工夫

作文の推敲やプリントによる学習に頼りがちな敬体・常体や敬語の学習を、日頃から使い分ける意識を高めることで、生きて使える言葉の習得につなげることができる。

子どもたちの作文を読むと、敬体と常体が入り交じっている文章がよく見られる。これは、表現の効果を狙ったものではなく、文体の統一を考えていないことが原因ではないかと考える。また、敬語を知識として理解できても、使い方を身に付けることは難しいのではないだろうか。

そこで、文体について改めて考える場面や、敬語を使う場面を設定する実践を紹介する。

1 「きつねの窓」で敬体と常体を考える

「きつねの窓」の教材で、「きつねの子」と「ぼく」が会話をする場面を取り上げる。子どもにはあらかじめ該当部分をプリントしたものを配布する。下記のように、プリントには敬体・常体で書かれている部分に傍線を引いておく。

きつね 声をそろえて言ったんです。
染めたんです。
ぼく お金が全然ないんだ。
なんでもやるよ。

傍線部の言葉の違いから、どんなことが分かるかを考える。

- ・ きつねはぼくに対して丁寧な言葉遣いをしているが、ぼくはきつねに対して友達のように話している。
- ・ きつねは店の人だから、お客さんのぼくに丁寧に話している。
- ・ ぼくは大人で、きつねは子どもだから、ぼくは普通に話し、きつねは丁寧に話している。

子どもたちからは、このような意見が出され、丁寧語としての敬体について学習することができた。

2 シミュレーションで敬語を学ぶ

尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別をしたり、敬語を使った文章に直したりする学習はよく見られる。しかし、それらを日常の中で適切に使うことができるようにするには、やはり会話を通して学習することが必要となってくるだろう。

具体的には、子ども同士で目上と目下の立場に分かれて会話をする方法がある。しかし、いきなり具体的な状況だけを提示して実施するのは難しいだろう。そこで、下記のような段階を踏むこととした。

- (1) 敬語が使われていない会話文を提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。
- (2) 会話文は提示せず、会話する内容だけを提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。
- (3) 場所や人物などの条件を提示し、目上と目下の立場に分かれて会話をする。

状況設定としては、修学旅行の見学先での質問場面や、家での電話対応、学校での来客対応などが考えられる。ペアで練習をした後、全体の場でよかった点や改善点を話し合うことによって、目上の人と礼儀正しく会話する方法に気付くことができるだろう。

力を身に付ける工夫

音更町立音更小学校 教諭 佐々木智穂



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

思・判・表

内容を正しく読み取るための「音読」や「発問」の工夫

音読の機会を多く設定することと発問の工夫によって、文章の叙述に即して内容を正しく読み取ることができるようにする。

文章の内容を正しく読み取るために、繰り返し音読することが重要だと考える。それは、繰り返し読むことで内容が分かるからである。また、優れた文章表現も記憶に残る。さらに、教師が子ども一人一人の音読の仕方についてもチェックすることができる。

高学年になると文章の量が多く、音読にかかる時間を多くとることは難しいが、家庭学習などで任せきりにするのではなく、授業の中でしっかり扱うことが大切だと考える。

ここでは、音読の機会を増やす工夫と、文章を正しく読み取るための発問の工夫を紹介する。

1 音読の機会を増やす工夫

音読の機会を増やすには、子どもが飽きないように、変化のある繰り返しを用いたい。

「川とノリオ」を授業したときには、以下のような変化を付けながら何度も音読を行った。

- ・小さな声で読む。
- ・起立して声を出して読む。
- ・隣の人と一文交代で読む。
- ・全員で声をそろえて読む。

まず、全員で声をそろえて読む。その後、何度か個人で練習し、最後にもう一度全員で読む。こうすることで、音読の機会を増やすだけでなく、教師が子どもたち全員の読みを評価することができる。最後の全員読みでは、「声が出せようになった」とか、「つまずくところが少

なくなった」など、上達したことを認めることができるだろう。

2 文章を正しく読み取るための発問の工夫

「川とノリオ」では、主に色に注目して発問を組み立てた。主な発問は以下のとおりである。

- ・この物語に出てきた色は何色ですか。また、それは何を表していますか。
- ・ノリオにとって、一番幸せな色は何色ですか。
- ・ノリオにとって、一番辛い色は何色ですか。
- ・青色は何を表していると思いますか。
- ・赤と白が生と死を表しているとしたら、どちらが生でどちらが死でしょう。
- ・ノリオにとって川とは、どんな存在ですか。
- ・「川とノリオ」の主題は何ですか。

意見が分かれたときには、文章中の言葉を根拠に話し合いを行った。上記5つ目の発問では、「赤は赤とんぼのように自由に生きる象徴で、白は父ちゃんの死を表しているから」というような意見が出された。

最後の主題についての発問では、

- ・人はちっぽけな存在だ。
- ・人間は悲しみを乗り越えて大きくなる。
- ・人間は川の流れるように気持ちの変化がある。

という意見が出され、主題に迫ることができた。

このように、音読の機会を増やしたり発問を工夫したりすることで、文章の叙述に即して内容を正しく読み取ることができると思う。